様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　5 月　20 日現在

機関番号：12501
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2008～2010
課題番号：20720184
研究課題名（和文）　オスマン帝国改革期における中央-地方の相互作用に関する研究

研究課題名（英文）　Center-Province Interaction in the Late Ottoman Empire

研究代表者
秋葉 淳（AKIBA JUN）
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：00375601

研究成果の概要（和文）：
本研究は、19 世紀オスマン帝国の改革を、中央政府と地方社会の相互作用の結果として生じたものとして捉え直すものである。その主たる成果として、地方評議会の機能、地方反乱の性格や背景、地方住民の官僚機構への進出などを分析し、地方住民が国家の政策に影響を及ぼす、あるいは、国家システムに参入する回路についてその具体的諸相を明らかにしたほか、中央政府が地方行政の問題に関する政策決定過程において地方官らに諮問する手続きがとられたことや、1845 年の地方代表者会議に見られるように、地方有力者の協力を得るために周到な準備をしていたことなどを見いだした。

研究成果の概要（英文）：
This study focuses on the interaction between the central state and the provincial societies in the nineteenth-century Ottoman Empire. I have analyzed the workings of the local councils, the characteristics and the social background of the local revolts, and the provincial people's entry into the Ottoman bureaucracy, to understand the paths through which the provincial people influenced the state's policy or took part in the state system. I have also found out that the central government consulted with the local officials on certain matters of local administration in the process of decision-making, and that it also made deliberate preparations to call for the local notables' cooperation as exemplified in the gathering of the provincial notables in the capital in 1845.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００９年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１０年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：西アジア・イスラーム史、オスマン帝国

１．研究開始当初の背景
19 世紀オスマン帝国における改革は、従来「上からの改革」と見なされていたが、近年では中央政府と地方社会の交渉や相互関係

に着目する研究が現れている。だが、帝国の中核地域であるバルカン・アナトリア地方については新しいアプローチによる研究は少なく、また、帝国全体の動きの中で中央・地方関係を位置づける見方も不十分である。そこで、本研究では、バルカン・アナトリア地域を主たる対象として、地方社会が中央の政策や国家体制にいかに影響を及ぼしたかという問題を検討する。

２．研究の目的

本研究は、19 世紀オスマン帝国における中央政府と地方社会の相互作用を、以下の諸側面から検討することを目的としていた。

(1) 各行政単位に置かれた地方評議会の役割を検討し、また、この制度の延長線上に組織・開催された 1845 年の地方代表者会議について調査することで、地方と中央との交渉の諸相を明らかにする。

(2) 中央政府の改革政策に対する地方社会の反乱や抵抗を検討し、それらの相互連関と、改革政策に与えた影響について明らかにする。

(3) いくつかの地域をケーススタディーの対象として採り上げ、地方評議会などを通じた地方社会と中央との交渉を具体的に検証する。

３．研究の方法

(1) 本研究は文書史料にもとづく実証的研究の方法を採る。主として依拠する史料はオスマン帝国の公文書であり、それを駆使することによって新たな事実を発見する。

(2) いくつかの地域をケーススタディーの対象とし、その際には、各地域について詳細なミクロレベルの研究を行う。そしてそのミクロレベルの動向がいかに全体と関わるかを明らかにする。

(3) 19 世紀オスマン帝国の置かれていた状況やその採用した政策は、他の諸国と共通する面をもつため、比較史的な手法を用いる。

４．研究成果

(1) オスマン帝国の「タンズィマート」改革（1839-76）初期における、地方行政・税制政策の修正について、中央–地方の交渉に着目しつつ、その政策決定過程を研究した。とくに、地方統治の基礎単位である郡の行政に関して、郡評議会を廃止し、徴税と治安維持を在地有力者の一人に委ねるという改革修正案をめぐって展開された中央と地方のやりとりに焦点を当てた。文書史料の精査によって、この改革修正案について、地方官からの意見の聴取によって地方の実情をくみ上げる手続きがとられ、地方官らが改革の修正策に対してきわめて慎重な姿勢を示したこと、そして、最終的に 1842 年 2 月に、財政的な危機と地方有力者の懐柔が優先された形で政策が決定され、郡評議会の曖昧な形での廃止、在地有力者から選ばれた郡長の任命、徴税請負制度の復活が決定されたことなどが明らかにされた。政策決定過程における地方官からの意見聴取という手続きの意義を強調し、タンズィマート改革の新しい側面に光を当てたこの研究成果は、論文①としてまず日本語で公表したが、近い将来に英語等の外国語で発表すれば、国際的にも通用するオリジナリティをもつと考えられる。

(2) オスマン帝国においてタンズィマート改革期に、各行政単位に設置され、地方官吏と在地有力者から構成された地方評議会について、その制度的沿革を住民代表委員の選出制度を中心にまとめ、オスマン帝国議会制の起源としての地方評議会の意義について考察を加えて英語で論考を発表した（図書②）。これは本研究代表者の既発表の日本語論文をもとに英語化したものであるが、委員選出方法等について新しい情報を加え、より正確に実相を捉えるものとなった。地方評議会に関して基本的情報を整理し、概観できるような研究は他にはなく、今後海外の研究者によっても参照・引用されることが期待される。

(3) オスマン帝国改革期の地方評議会に関連して、1845 年に各地の地方有力者を首都イスタンブルに集めて開催された地方代表者会議について、その規模や開催の目的などを明らかにした（学会発表⑤）。この研究の主たる成果は、この会議が総勢約 300 名にのぼる、ムスリム・非ムスリムほぼ同数の地方有力者を首都に集合させた巨大な政治的イベントであったが、会議の目的は、地方代表者からの聴取以上に、中央主導の新しい改革、すなわち新たな全戸収入調査を始めとする諸政策を彼らに承認させ、協力を要求することにあった、という点を明らかにしたことである。しかし、この研究成果を国内で発表した数ヶ月後に、トルコ語で全く同じテーマで書かれた論文が刊行されていたことが判明したため、活字化することは見送らざるを得なかった。今後アプローチを少し変えることで成果を刊行する予定である。

(4) オスマン帝国においてタンズィマート

改革初期に、主に税制改革に対する不満から各地で発生した地方反乱について調査し、とくにアナトリア中部のトカトで起きた事件を事例に反乱の性格や背景を明らかにした（図書①）。トカトでは他地域と異なり、中央から派遣された徴税官が殺害されたことが注目される。本研究ではこのような事態に至った直接の背景として在地有力者と徴税官の対立、住民の徴税官に対する不満などを指摘し、また、トカトという町が訴願から暴力的な反乱に至る様々なレベルの抗議運動の伝統をもっていたことがより広い背景として存在することを明らかにした。さらに、この反乱における民衆の役割、抗議行動の様式、ムスリム・非ムスリム関係、そして女性の役割についても考察を加えた。この時期の反乱については日本ではこれまで研究がなく、また、アナトリア地方の反乱について言えばトルコ以外ではほとんど研究されていない。そのため、今回このテーマに関して初めて日本語で出版されたことには意義がある。

(5) アナトリア南部の町イブラドゥや黒海東部沿岸地方などを事例として採り上げ、これらの地域社会の、中央との関係や、国家の改革政策に対する反応について調査した。それによって、この地域の住民が積極的に中央政府と交渉し、また、官僚機構の中に進出したことを明らかにした。イブラドゥに関しては、この町の 18 世紀に遡る、内部の名望家同士の対立関係並びに中央との密接な関係を掘り起こし、とくにタンズィマート期については郡長職をめぐる有力者たちのライバル関係、有力家系の官僚機構への進出などを検討した。黒海東部沿岸地域については、この地域の比較的低い階層の出身者が、改革期以降、シャリーア法廷裁判官及び税関官吏などとしてオスマン官僚機構の中に進出したことを見いだし、その背景を考察した。このテーマに関しては海外で学会発表を行い、一定の評価を得た（学会発表③、④)。

(6) 19 世紀オスマン帝国の改革に関わる主要な基礎史料の抄訳と解説を刊行した（図書③)。ここで訳出したものはどれも重要な史料であり、これらが部分訳とはいえ、日本語で読めるようになったこと、また、最新の研究動向をふまえた解説を付したことの意義は大きい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①秋葉淳「タンズィマート初期改革の修正―郡行政をめぐる政策決定過程(1841-42 年)」『東洋文化』91 号，2011，219-241（査読無）.
②秋葉淳「オスマン帝国末期リビアにおける司法制度の「オスマン化」」『東洋学報』90 巻第 2 号，2008，27-54（査読有）.

〔学会発表〕（計 7 件）
①秋葉淳「イブラドゥ：アナトリアの一地方社会から見る 18 世紀オスマン帝国」九州史学会平成 22 年度大会（福岡，九州大学文学部，2010 年 12 月 12 日）
②秋葉淳「タンズィマート初期改革の修正：郡行政をめぐる政策決定過程（1841-42 年)」NIHUプログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点・東京大学東洋文化研究所（東文研セミナー・班研究「オスマン帝国史の諸問題」）共催研究会（東京，東京大学東洋文化研究所，2010 年 11 月 13 日）
③ Jun Akiba, “Education and Social Mobility among the People of the Eastern Black Sea Region during the Late Ottoman Period.” 第 3 回中東研究世界大会The Third World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), ヨーロッパ地中海研究所（The European Institute of the Mediterranean)，WOCMES委員会主催（スペイン，バルセロナ自治大学，2010 年 7 月 22 日）
④ Jun Akiba, “Local Solidarity in the Ottoman Bureaucracy during the late 18th and 19th Centuries: A Case of İbradı.” コチ大学アナトリア文明研究センター（Research Center for Anatolian Civilizations, Koç University)・ミニシンポジウム Mini-Symosium: “Provincial Officials in the Ottoman Empire during the Mid-18th and 19th Centuries: Formation, Functions, Identities”（イスタンブル，コチ大学アナトリア文明研究センター，2010 年 5 月 14 日).
⑤秋葉淳「1845 年の地方代表者会議：タンズィマート期オスマン帝国の実験」日本中東学会第 25 回年次大会（広島，広島市立大学，2009 年 5 月 17 日).
⑥秋葉淳「19 世紀オスマン帝国における改革と抵抗―アナトリアの事例からー」シンポジウム「国民国家形成期の民衆運動と政治文化」人間文化研究機構・アジア民衆史研究会共催（明治大学駿河台校舎，2008 年 11 月 29 日).
⑦秋葉淳「タンズィマート改革初期におけるオスマン帝国の政策決定過程」日本オリエント学会第 50 回大会（つくば，筑波大学春日キャンパス，2008 年 11 月 2 日).

〔図書〕（計３件）

①（共著）久留島浩・趙景達編『国民国家の比較較史』有志舎，2010 年．秋葉淳「19 世紀オスマン帝国における改革と抵抗―1840-41 年のアナトリア」，437-453.

②（共著）Akiba Jun, “The Local Councils as the Origin of the Parliamentary System in the Ottoman Empire.” In *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World*, ed. Sato Tsugitaka, pp. 176-204. Tokyo: The Tokyo Bunko, 2009.

③（共著）歴史学研究会（編）『世界史史料 8 帝国主義と各地の抵抗I 南アジア・中東・アフリカ』岩波書店，2009 年．秋葉淳（訳・解説）「オスマン帝国における活版印刷の導入」，「セリム三世の「ニザーム・ジェディード改革」」，「イェニチェリ軍団の廃止と近代軍の創設」，「ギュルハーネ勅令とタンジマート改革の開始」，「改革勅令とムスリム・非ムスリムの平等化」，「オスマン帝国におけるアーヤーン（地方名士）の権利要求」，「タンジマート改革のブルガリアへの影響」，「カフカースとバルカンからオスマン帝国へのムスリム難民の流入」，「西洋化するイスタンブル社会」，「オスマン帝国財政の破綻とヨーロッパ資本への従属」，「バグダード鉄道の建設」，「トルコ・ナショナリズムの生成」115-123, 125-126, 130-131, 133-140, 143-145.

６．研究組織

(1)研究代表者

秋葉 淳（AKIBA JUN）
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：00375601